

【英 語】

筆 記

【解答・採点基準】

(200点満点)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点	自己採点	
第1問	A	問1	①	2		
		問2	②	2		
		問3	③	2		
	B	問1	④	①	2	
		問2	⑤	③	2	
		問3	⑥	②	2	
		問4	⑦	①	2	
	第1問 自己採点小計				(14)	
第2問	A	問1	⑧	①	2	
		問2	⑨	④	2	
		問3	⑩	①	2	
		問4	⑪	③	2	
		問5	⑫	③	2	
		問6	⑬	①	2	
		問7	⑭	④	2	
		問8	⑮	④	2	
		問9	⑯	②	2	
		問10	⑰	④	2	
	B	問1	⑱	⑤	4 ※	
			⑲	⑥		
		問2	⑳	④	4 ※	
			㉑	⑤		
		問3	㉒	②	4 ※	
			㉓	④		
	C	問1	㉔	⑦	4	
		問2	㉕	⑧	4	
		問3	㉖	⑥	4	
第2問 自己採点小計				(44)		

(注) ※は、全部正解の場合のみ点を与える。

問題番号	設 問	解 答 番 号	正解	配点	自己採点	
第3問	A	問 1	㉗	①	4	
		問 2	㉘	④	4	
	B	問 1	㉙	②	5	
		問 2	㉚	④	5	
		問 3	㉛	③	5	
	C		㉜	④	6	
			㉝	③	6	
			㉞	①	6	
第3問 自己採点小計				(41)		
第4問	A	問 1	㉟	①	5	
		問 2	㊱	②	5	
		問 3	㊲	①	5	
		問 4	㊳	②	5	
	B	問 1	㊴	①	5	
		問 2	㊵	②	5	
		問 3	㊶	④	5	
第4問 自己採点小計				(35)		
第5問	問 1	㊷	④	6		
	問 2	㊸	②	6		
	問 3	㊹	③	6		
	問 4	㊺	③	6		
	問 5	㊻	④	6		
第5問 自己採点小計				(30)		
第6問	A	問 1	㊼	④	6	
		問 2	㊽	②	6	
		問 3	㊾	③	6	
		問 4	㊿	②	6	
		問 5	㋀	①	6	
	B		㋁	②	6 ※	
			㋂	①		
			㋃	③		
			㋄	④		
第6問 自己採点小計				(36)		
自己採点合計				(200)		

英
語

【解説】

第1問 発音・アクセント問題

A 発音問題

問1 [1]

- ① broad /brɔ:d/「広い」/ɔ:/
 ② coast /koust/「沿岸」/ou/
 ③ goal /goul/「目標」/ou/
 ④ soap /soup/「石けん」/ou/

したがって、①が正解。

問2 [2]

- ① absence /æbsəns/「欠席」/b/
 ② climber /klaɪmər/「登山家」/φ/
 ③ public /pʌblik/「公共の」/b/
 ④ subway /sʌbwèi/「地下鉄」/b/

したがって、黙字の②が正解。

問3 [3]

- ① elephant /ələfənt/「ゾウ」/f/
 ② physics /fiziks/「物理学」/f/
 ③ shepherd /ʃepərd/「羊飼」/p/
 ④ triumph /traɪəmf/「大勝利」/f/

したがって、③が正解。

B アクセント問題

問1 [4]

- ① creature /kri:tʃər/「生き物」第1音節
 ② improve /ɪmpru:v/「改良する」第2音節
 ③ perform /pə:fɔ:m/「行う」第2音節
 ④ prefer /prɪfər/「より好む」第2音節

したがって、①が正解。

問2 [5]

- ① article /ɑ:tɪkl/「記事」第1音節
 ② cultural /kʌltʃərəl/「文化の」第1音節
 ③ horizon /həraɪzn/「水平線」第2音節
 ④ paragraph /pəˈrægræf/「段落」第1音節

したがって、③が正解。

問3 [6]

- ① container /kəntéinər/「容器」第2音節
 ② interval /ɪntərvl/「間隔」第1音節
 ③ opponent /əpəʊnənt/「(競技の)相手」第2音節
 ④ suspicion /səspɪʃən/「疑い」第2音節

したがって、②が正解。

問4 [7]

- ① citizenship /sɪtənzɪp/「市民権」第1音節
 ② interior /ɪntɪəriər/「インテリア」第2音節
 ③ technology /teknɒlədʒi/「科学技術」第2音節
 ④ unusual /ʌnju:ʒuəl/「普通でない」第2音節

したがって、①が正解。

第2問 文法・語法空所補充問題・語句整序問題・応答文完成問題

A 文法・語法空所補充問題

問1 I got stuck in a traffic jam on the way.

When I got to the airport, the airplane [8].

- ① had taken off ② has taken off
 ③ takes off ④ will take off

私は途中で渋滞にはまってしまった。空港に着いたとき、飛行機はすでに離陸した後だった。

【ポイント】

過去完了形

過去の一時点までに動作が完了していることを表す場合、動詞の時制は過去完了形(had+過去分詞)になる。本問では、I got to the airport「私が空港に着いた」という過去の時点において the airplane had taken off「すでに飛行機が離陸してしまっていた」という動作の完了を、過去完了形(had taken off)で表している。

[例] When I turned around again, the cat had vanished.

もう一度振り返ってみると、猫の姿はなかった。

- ・ get stuck in A「Aにはまって動けなくなる」
- ・ traffic jam「交通渋滞」
- ・ take off「離陸する」

【他の選択肢について】

② has taken off, ③ takes off, ④ will take off は、いずれも不可。②は現在完了形、③は現在形、④は未来時制だが、いずれも When I got to the airport「私が空港に着いたとき」という過去時制と関連付けることができないため、同じ文の中で用いることはできない。

問2 This is said to be the pen [9] the writer wrote that famous novel.

- ① on which ② what
 ③ which ④ with which

これはその作家があの有名な小説を書いたときに使ったペンだと言われている。

【ポイント】

前置詞+関係代名詞

関係代名詞の前に前置詞が置かれることがある。本問では、the writer wrote that famous novel with the pen「その作家はあの有名な小説をそのペンで書いた」という文を、the penを先行詞とする関係詞節にすることを想定すればよい。with the penが with which となって関係詞節の先頭に置か

れ, the pen with which the writer wrote that famous novel という表現になる。なお、この前置詞 with は the pen (which / that) the writer wrote that famous novel with のように、関係詞節の末尾に置かれることもある。

【例】 This is the house in which he lived when he was young.

= This is the house (which / that) he lived in when he was young.

ここは彼が若い頃に暮らしていた家です。

・ be said to-不定詞「～だと言われている／～だそうだ」

【他の選択肢について】

① on which は, the writer wrote that famous novel on the pen という誤文を前提としていることになるので、不可。

② what は, what が先行詞をとらない関係代名詞なので、不可。

③ which は, which から始まる関係詞節が先行詞を修飾する場合、which に続く部分で主語や目的語に相当する要素が1つ欠けた形になっていなければならないので、不可。空所の後ろが the writer wrote that famous novel with となっていれば、③が正解となる。

問3 The sooner I [10] this work done, the sooner I can go home.

① get ② keep ③ let ④ take

この仕事を早く終わらせれば、それだけ早く帰宅できる。

【ポイント】

get A done

get A done は「A を終わらせる／A を仕上げる」という意味を表す。get A finished もほぼ同じ意味を表す。

【例】 I managed to get my assignment done in time.

私はどうにか課題を期日内に終えた。

・ the sooner ~, the sooner ... 「～するのが早ければ早いほど、それだけ早く…」

問4 The new exhibition hall. [11] like a submarine, is due to open in July next year.

① is shaping ② shape
③ shaped ④ to shape

潜水艦のような形をした新しい展示場は、来年7月にオープン予定だ。

【ポイント】

分詞句による補足説明

名詞の直後をコンマで区切った後、分詞句によってその名詞を補足説明することがある。直前の名詞と分詞との間に、意味の上で能動関係があれば現在分詞、受動関係があれば過去分詞が用いられる。本問では The new exhibition hall と shape 「形づく」との間に受動関係があるので、過去分詞 shaped が用いられている。

【例】 Alcoholics Anonymous, founded in 1935 in Ohio, is now a worldwide organization.

1935年にオハイオ州で創設されたアルコール依存症者更生会は、今では世界中に広がっている組織だ。

・ exhibition hall 「展示場」

・ submarine 「潜水艦」

・ be due to-不定詞「～する予定である」

問5 I'm still thirsty. Could I have [12] water, please?

① many more ② quite a few
③ some more ④ very few

まだのどが渇いています。水をもう少しいただけますか？

【ポイント】

some more A

some more A は「もう少し多くの A」という意味を表す。A には可算名詞の複数形でも、不可算名詞でも、どちらでも用いることができる。本問では不可算名詞 water が用いられている。

【例1】 I want some more time to think things over.

いろいろと考えるのに、もう少し時間がほしいのですが。

【例2】 Would you like some more cookies?

もう少しクッキーを召し上がりませんか？

【他の選択肢について】

① many more は、後ろに可算名詞の複数形を置いて「ずっと多くの～」という意味を表すので、不可。

【例】 There might be many more bankruptcies of small companies this year.

今年は小さな会社の倒産がずっと増えるかもしれない。

② quite a few は、後ろに可算名詞の複数形を置いて「かなり多くの～」という意味を表すので、不可。

[例] He's been working at the same place for quite a few years.

彼は長年、同じ職場で働いている。

④ very few は、後ろに可算名詞の複数形を置いて「ほとんど～ない／非常に少ない～」という意味を表すので、不可。

[例] Very few students learn Latin now.

現在、ラテン語を学ぶ学生はほとんどいない。

問6 You should keep a bucket of water 13 hand when you are using fireworks.

① at ② by ③ for ④ with

花火を扱うときは、バケツ1杯の水を近くに用意しておくさい。

【ポイント】

イディオム at hand

イディオム at hand は、「近くに／いつでも使えるように」という意味を表す。

[例] You should keep a radio at hand during natural disasters.

自然災害時には手元にいつでもラジオを備えておくべきだ。

・ a bucket of A 「バケツ1杯のA」

・ fireworks 「花火」

【他の選択肢について】

② by は、by hand で「(機械でなく)手で」という意味を表すので、不可。

[例] The crop has to be harvested by hand.

その作物は手作業で収穫しなければならない。

③ for, ④ with は、for hand, with hand という形で用いられることがないので、不可。

問7 We were very worried about you. You 14 to tell us that you were safe.

① can call ② can have called

③ could call ④ could have called

私たちはとてもあなたのことを心配していたんですよ。無事であることを知らせるために電話してくれてよかったのではないですか。

【ポイント】

could have+過去分詞

could have+過去分詞 は、「(やろうと思えば)～できただろうに／～してもよかっただろうに」という仮定法過去完了の意味を表し、婉曲的に非難する場合に用いられることがある。

[例] You could have told me that he wasn't

coming.

彼が来ないということを教えてくれてよかったのではないか。

【他の選択肢について】

① can call は不可。can は「～することができる」という現在の能力や「～することがある」という可能性を表す。

[例] It seems that she thinks she can call me at all hours of the day and night.

彼女は昼夜を問わずいつでも私に電話をかけることができると考えているみたいだ。

② can have called は不可。通例 can have+過去分詞の形では用いられない。否定文の cannot have+過去分詞であれば「～だったはずはない」という意味で用いられる。

[例] You cannot have seen him. He was not in Japan then.

彼を見かけたなんてありえないよ。彼はそのとき日本にいなかったからね。

③ could call は不可。could は「～することができた」という過去の能力や、「～しようと思えばできるだろう」という、仮定的条件のもとでの現在の可能性や推量などの意味を表す。

[例1] He could swim very well when he was a child.

彼は子どもの頃、水泳がとてもうまかった。

[例2] I am so hungry that I could eat a horse.

あまりにおなかですいていて、馬1頭でも食べられるほどだ。

問8 When I was abroad (A) vacation. I didn't know (B) to do with my time. 15

① A: in B: how ② A: in B: what

③ A: on B: how ④ A: on B: what

私は休暇で外国にいたとき、時間をどう過ごしたらいいかかわらなかつた。

【ポイント】

1. イディオム on vacation

on vacation は「休暇で」という意味を表す。on の代わりに in は用いられない。

[例] She will go to Europe on vacation.

彼女は休暇でヨーロッパに行く予定だ。

2. what to do with A

what to do with A は「Aをどうしたらよいのか／Aをどう扱うべきか」という意味を表す。what は do の目的語として働いている。how は副詞であ

り, how to do with my time とすると, do の目的語がなくなるので, 不可。

[例] We talked about **what to do with the money.**

私たちはそのお金をどうしたらよいかについて話し合った。

【関連】

「従事」を表す on

前置詞 on が「(ある事柄)に従事して」という意味を表すことがある。このような on の例としては, on business「仕事で」, on a trip「旅行で」, on an errand「お使いで」などがある。

[例 1] I will go to Nagoya **on business** next week.

来週, 仕事で名古屋に行く予定です。

[例 2] I will go **on a hiking trip** if the weather is good.

天気良ければハイキングに行きます。

[例 3] My daughter has gone **on an errand** for me.

娘は私のためにお使いに出ています。

問 9 I don't like (A) talking because he always sounds as (B) he's making fun of me. **16**

- ① A : his way of B : like
② A : his way of B : though
③ A : the way of his B : like
④ A : the way of his B : though

いつも私をからかっているように聞こえるので, 彼の話し方が好きではない。

【ポイント】

1. one's way of ~ing

one's way of ~ing は「人が~する仕方」という意味である。one's を ~ing の直前に置くことはできないので, 本問では ③ と ④ の the way of his talking は不可。

[例] After she had lost all her property, she had to change **her way of living.**

全財産を失った後, 彼女は生活の仕方を変えなくてはならなかった。

2. as though SV ...

as though SV ... は「まるで...のように」という意味を表す。as if SV ... も同様の意味を表す。また like SV ... も同様の意味を表すことがあるが, as like のように as と like が組み合わされて用いられ

ることはない。

[例 1] They treated us **as though** we were from abroad.

彼らは私たちをまるで外国人であるかのように扱った。

[例 2] He behaved **as if** something serious had happened.

彼は何か重大なことが起こったかのように振る舞った。

・ make fun of A「A をからかう」

問 10 Your computer password needs to (A) at least 6 alphabetic (B). **17**

- ① A : be consisted of B : characteristics
② A : be consisted of B : characters
③ A : consist of B : characteristics
④ A : consist of B : characters

コンピューターのパスワードは, 少なくとも 6 つの文字列から成っている必要があります。

【ポイント】

1. consist of A

consist of A は「A から成る」という意味を表す。consist は目的語を取らない自動詞なので, be consisted のように受動態では用いられない。be composed of A / be made up of A など同様の意味を表す。

[例] The committee **consists of** more than twenty members.

その委員会は 20 人以上のメンバーから成っている。

2. 名詞 character

名詞 character には「特徴/性格」という意味の他に「文字/記号」という意味がある。名詞 characteristic は「特徴/特質」という意味で用いられるが, 「文字」という意味で用いられることはない。

[例] Write an example of a Chinese **character** on the blackboard.

黒板に例として漢字 1 文字を書いてください。

B 語句整序問題

問 1 **18** **19**

ケイト: ブルースがまだ来てないわね。

ルース: うん, 来ないことに決めたのかもしれないね。

【正解】

Well, he may have decided not to come.
④ ⑤ ③ ② ⑥ ①

【ポイント】

1. may have+過去分詞

may have+過去分詞は「～したかもしれない／～だったかもしれない」という意味を表す。

[例] She **may have gone** to the movies last night.

彼女は昨夜、映画を見に行ったかもしれない。

2. decide not to-不定詞

decide not to-不定詞は「～しないことに決める」という意味を表す。to-不定詞を否定するときには、not を to-不定詞の前に置く。なお、「～すると決める／決心する」という意味を表すときには、decide to-不定詞とする。

[例] Mr. Smith has decided **not to run** for office in the next election.

スミス氏は次の選挙では立候補しないことに決めた。

[例] We finally **decided to get married** in Hawaii.

私たちは最終的にハワイで結婚することに決めた。

問2 [20] [21]

客：このパンフレット、もらっていいですか？

受付：はい、お持ちください。この辺りを散策される方へのアドバイスがたくさん載っていますよ。

【正解】

It is full of advice for people walking around here.
③ ④ ① ② ⑥ ⑥

【ポイント】

1. be full of A

be full of Aは「Aでいっぱいである／満杯である」という意味を表す。be filled with Aもほぼ同じ意味を表す。

[例] The sky **is full of** stars tonight.

今夜は満天の星空だ。

[例] They **were filled with** envy at her good fortune.

彼らは彼女の幸運をうらやむ気持ちでいっぱいだった。

2. 現在分詞による後置修飾

本問において、現在分詞句の walking around here は、名詞 people を後置修飾している。このように、現在分詞の句は前の名詞を修飾することがある。walking around here で「この辺りを歩く」という意味となっているので、walking people around here とはならない。

[例] We should pay more attention to people **suffering from poverty**.

私たちは貧困に苦しむ人々にもっと注意を向けなければならない。

問3 [22] [23]

エレン：環境問題がどんどん深刻になっているわね。

リズ：そうね。雨林を破壊から救うにはもうほとんど手遅れね。

【正解】

It's almost too late to save the rain forest from destruction.
⑥ ② ⑤ ③ ④ ①

- ・比較級+and+比較級「どんどん～／だんだん～」
- ・rain forest 「(熱帯)雨林」
- ・destruction 「破壊」

【ポイント】

1. too ～ to-不定詞

too ～ to-不定詞は「…するにはあまりに～だ／あまりに～すぎて…できない」という意味を表す。

[例] The coffee was **too hot to drink**.

そのコーヒーは、あまりに熱くて飲めなかった。

2. save A from B

save A from Bは「AをBから救う」という意味を表す。なお、from の後ろには動名詞が来ることもある。

[例] He **saved** the furniture **from** the burning house.

彼は燃えている家から家具を救い出した。

[例] He **saved** his friend **from** drowning.

彼は友人がおぼれかけているのを助けた。

C 応答文完成問題

問1 [24]

マコト：宿題を手伝ってくれない？

ロザンナ：だめよ。自分でやるべきだよ。

【正解】

- ⑦ You ought to do it for yourself.
(B) (B) (A)

【ポイント】

1. ought to-不定詞

ought to-不定詞は「～すべきだ」という意味を表す。should+動詞の原形 とほぼ同様の意味である。

〔例〕 You ought to apologize to her right now.
あなたは今すぐ彼女に謝るべきだ。

2. for oneself

for oneselfは「独力で／自分のために」という意味を表す。

〔例〕 You have to figure out how to solve the problem for yourself.
あなたは、その問題の解決の仕方を自力で見つけ出さなくてはならない。

- ・ help A with B 「A の B を手伝う」
- ・ nope 「いいえ／いや」

【その他の表現について】

1. 助動詞 must

must+動詞の原形で「～しなければならない」という意味を表すが、本問の左列を(A)、中列を(A)とすると、You must be done「あなたがなされなければならない」となり、意味をなさない。

2. of itself

of itselfは「ひとりで／おのずから」という意味を表すやや古風なイディオム。なお、of oneselfというイディオムは、of itself と of themselves の2つの形しかないで、右列(B)の of yourself は意味をなさない。

〔例〕 I fell down and injured my knee, but the bleeding stopped of itself.

転んでひざにケガをしたが、血は自然に止まった。

問2 25

従業員：スティーブがあんな振る舞いしたなんて信じられないよ。

同僚：本気でやったんじゃないよ。なぜ彼がそうしたのか分かってもらえるといいんだけど。

【正解】

- ⑧ I wish you understood what made him do it.
(B) (B) (B)

【ポイント】

1. wish (that) S+動詞の過去形

wish (that) S+動詞の過去形で「S が～ならいいのになあと思う」という意味を表し、現在の事実と反することや実現不可能なことへの願望を表す。wish に続く that 節中に現在形が用いられることはないで、中列(A)の you understand what は不可。

〔例〕 I wish you were here.
あなたがここにいてくれるといいのに。

2. what の用法

本問の what made him do it は「何が彼にそうさせたか／なぜ彼はそうしたのか」という意味で、why he did it とほぼ同じ意味を表す。

what は名詞節を導き、「何が[を]～するのか／～すること」などの意味を表す。what に続く部分は、主語や目的語に相当する要素が1つ欠けた形になっていなければならない。したがって、右列(A)の he had to do it は、すべての要素がそろっているで、what には続かない。

〔例〕 I don't know what brought him here.
どうして彼がここに来たのか知らない。

- ・ mean 「本気でする」

【その他の表現について】

動詞 want

動詞 want は、want A+to-不定詞「A に～してもらいたい」の形では用いられるが、want that SV ... の形では用いられない。

〔例〕 I want you to talk to him.
彼と話をしてもらいたいんだ。

問3 26

リョウタ：ラングドン先生の授業の最終レポートに何を書いたらいいのかなあ。

シドニー：メアリに聞くといいと思うよ。彼女はラングドン先生の授業を取ったことがあるって言っていたからね。

【正解】

- ⑥ I think you should ask Mary because she told me she had taken his class.
(B) (A) (B)

【ポイント】

1. 動詞 tell

動詞 tell は、tell A that SV ... で「A に…と言う」という意味で用いられる。また tell A to-不定詞で「A に～するように言う」という意味でも用いられるが、tell A to-不定詞の to の後に have+過去分詞が来ることはないで、左列を(B)、中列を(B)とし、

she told me to have taken とすることはできない。

2. take a class

take a class で「授業を受ける／クラスを受講する」という意味を表す。

【例】 I **take an aerobics class** twice a week.

私は週に2回、エアロビクスのクラスを受けている。

・ essay 「論文／レポート」

【その他の表現について】

be said to have+過去分詞

be said to have+過去分詞は「～したと言われている」という意味を表す。本問を(A)→(B)→(B)として I was said to have taken his class. という英文にすると、「私は彼の授業を受講したと言われている」という意味になり、会話の流れに合わない。なお、be said (that) SV ... の形になるのは、形式主語の it を用いた it is said that SV ... の場合だけである。

第3問 対話文空所補充問題・不要文選択問題・意見要約問題

A 対話文空所補充問題

問1 [27]

【全訳】

店員：ご用件を承ります。

ジェーン：一昨日ここで、このスマホを買ったばかりなんです、まったく起動しないんです。

店員：① ちょっと見せていただけますか？

ジェーン：はい、どうぞ。

店員：うーん。まったく動きませんね。では、これを別のスマホと交換するか、返金させていただきますことができます。

【語句解説】

・ Can I help you? 「ご用件を承ります／いらっしゃいませ」

・ the day before yesterday 「一昨日」

・ won't+動詞の原形「どうしても～(しようと)しない」主語は人でも物でもよい。

・ switch on 「起動する／スイッチが入る」

・ take a look at A 「(点検のために)Aを見る」

【例】 Dad, can you **take a look at** my bike?

There's something wrong with the brakes.

パパ、私の自転車を見てくれない？ ブレーキの具合が悪いの。

・ Here you are. 「はい、どうぞ」相手に物を手渡す時に用いる。

・ work 「(機械などが)動く／機能する」

・ exchange A for B 「AをBと交換する」

【例】 I have to **exchange** the battery **for** a new one.

バッテリーを新しいのと交換しなければならない。

・ refund 「返金する」

【他の選択肢について】

② 別の電話をお持ちですか？

③ ここはどこですか？

④ ご冗談ですよ。

【解法のヒント】

買ったばかりのスマートフォンが起動しないと言うジェーンに対して店員が何と言ったかを問う問題。空所の後でジェーンが Here you are. 「はい、どうぞ」と言いながらスマートフォンを手渡し、店員が Hmm. It won't work at all. 「うーん。まったく動きませんね」と言っているの、空所には「スマートフォンを見せてほしい」という内容の発話が入るのが自然な会話の流れになる。したがって、①が正解。

問2 [28]

【全訳】

ラリー：いつも弁当を持ってくるの？

アリス：そうよ、自分で作れば安く済むし、お金を貯めようとしているの。

ラリー：だから、仕事の後に決して僕たちと一緒にには出かけないのかい？

アリス：④ ええ、でもそれだけじゃないの。80歳になる母が入院しているの。仕事帰りに毎日、顔を見に行ってるのよ。

ラリー：それは大変だね。

【語句解説】

・ cost 「(費用が)かかる」

・ save 「(お金を)貯める」

・ Is that why SV ...? 「だから…なのですか？」

【例】 "I was caught in a traffic jam."

"Is that why you were late?"

「渋滞につかまっちゃった」

「それで遅刻したの？」

・ go out with A 「Aと一緒に掛ける／Aとデートする」

・ I'm sorry to hear that. 「それは大変ですね／それはお気の毒に」

【他の選択肢について】

① 料理するのが好きなの。

- ② 平日は決して外出しないわ。
③ いいえ、でもいつもそうなのよ。

【解法のヒント】

職場の同僚のアリスが仕事帰りに一緒に出かけようとしなのは彼女が貯金しているせいだと思ったラリーに対し、アリスが何と言ったかを問う問題。空所の後でアリスは、My eighty-year-old mother is in the hospital. I visit her after work every day. 「80 歳になる母が入院しているの。仕事帰りに毎日、顔を見に行ってるのよ」と述べ、これもまた仕事帰りに同僚と行動を共にしない理由であることを伝えている。空所には「貯金以外の理由もある」という趣旨の発話が入ると自然な流れになるので、④ が正解。

B 不要文選択問題

問1 29

【全訳】

真の理解は双方向的なものである。2 人の人がその過程に参加することが必要である。相手に耳を傾けてもらいたければ、自分も相手に耳を傾けなければならない。①相手に理解してもらいたければ、その相手の人のことを理解するように努力しなければならない。②人に自分の考えを尊重してもらいたければ、自分の考えをはっきりと述べさすべし。③このことは、自分の考えや観点がまったく異なるときでも当てはまる。④相手の観点を理解することが難しいと思うこともあるだろう。しかし、努力すれば、なぜその人がある特定の考え方や感じ方をしているのかを理解することができるだろう。

【語句・構文解説】

- ・ two-way street 「双方向的なもの／相互的關係」
- ・ require that SV ... 「…を必要とする／要求する」
- ・ participate in A 「A に参加する」

【例】 He didn't participate in the discussion.

彼はその討論に参加しなかった。

- ・ process 「過程」
- ・ in return 「お返しに／代わりに」

【例】 She asked for his opinion, but he just asked her a question in return.

彼女は彼の意見を求めたが、彼は代わりに質問しただけだった。

- ・ make an effort to-不定詞「～するように努力する」
- ・ respect 「尊重する」
- ・ all you have to do is to-不定詞「～しさえすれば

よい」 is の後ろの to-不定詞は、動詞の原形でもよい。

【例】 All you have to do is sign your name here.

君はここに署名しさえすればいいんだよ。

- ・ express 「述べる／表現する」
- ・ point of view 「観点／視点」
- ・ find it hard to-不定詞「～するのが難しいと思う」
- ・ grasp 「理解する／把握する」
- ・ a particular way 「特定のやり方で」

【解法のヒント】

このパラグラフでは、「真の理解は 2 人の人が関わる双方向的なものであること」について述べている。第 1 文でトピックを述べ、第 3 文と①では、その具体例を述べているが、②は「自分の考えを尊重してもらうには、一方的に自分の考えを述べればよい」という内容で、このパラグラフの主張に合わない。②を取り除けば、③の This が、①の「相手に理解してもらうには、相手のことを理解しなければならない」という文内容を指すことになり、③、④、最終文の「相手と考えや観点がまったく異なるときでも、努力すれば理解できる」という内容と自然なつながりになる。したがって、正解は②。

問2 30

【全訳】

トウガラシのようなピリッとする食べ物に慣れることは本当に可能なのだろうか？ トウガラシに耐えられるのは、体にある痛みの受容体がカプサイシンに反応する仕方が体内で変化する結果である。カプサイシンは、ピリッとするトウガラシに含まれる物質で、トウガラシで味付けされた食べ物「辛さ」の要因である。①舌には、ピリッとする辛味に反応し、この痛みの信号を脳に伝達する神経細胞がある。②しかし、カプサイシンに繰り返し短期間触れることで、これらの神経細胞は痛みの信号をそれ以上に伝達しなくなってしまう。③長期間にわたって、ピリッとする食べ物を繰り返し食べることで、神経がピリッとした辛味に慣れてしまうのである。④これは、ピリッとする食べ物を食べると必ず発汗するからである。しかし、その影響はずっと続くわけではなく、元に戻ることもある。したがって、燃えるような感覚を抑えておくには、ピリッとする食べ物を定期的に摂る食事が必要となる。

【語句・構文解説】

- ・ get used to A 「A に慣れる」

【例】 I soon got used to life in the country.

私はすぐに田舎の生活に慣れた。

- ・spicy 「ピリッとする／スパイスの効いた」
- ・chili pepper 「トウガラシ」 (=chili)
- ・tolerance to A 「A に耐えられること」
- ・result from A 「A から結果として生じる／A が原因となる」

【例】 Many hair problems result from what you eat.

髪の毛の問題の多くは、食べ物が原因だ。

- ・physical 「肉体の／物理的な」
- ・pain receptor 「痛みの受容体」 受容体とは、細胞膜表面、細胞質、または核内に存在し、特定の物質と結合することで細胞にシグナルを伝え、応答を起こすタンパク質のこと。
- ・react to A 「A に反応を示す」
- ・capsaicin 「カプサイシン」 トウガラシの種の付近に含まれる辛味成分。
- ・substance 「物質」
- ・be responsible for A 「A の要因である」
- ・hot 「辛い」
- ・flavor A with B 「A を B で味付けする」
- ・tongue 「舌」
- ・nerve cell 「神経細胞」
- ・respond to A 「A に反応する」
- ・heat 「辛味」
- ・transmit A to B 「A を B に伝達する」
- ・signal 「信号」
- ・repeated 「繰り返される」
- ・short-term 「短期の」
- ・exposure to A 「A に触れること」
- ・cease 「止める」
- ・further 「さらなる」 形容詞 far の比較級。
- ・transmission 「伝達」

- ・over the long term 「長期間にわたって」
- ・consumption 「食べること／消費」
- ・This is because SV 「これは…だからである」 前文に対して理由を述べるときに用いられる。

【例】 We didn't consider him for the job. This is because he didn't have enough experience.

彼にその仕事をやらせるか検討しませんでした。彼には十分な経験がなかったからです。

- ・never ... without ~ing 「…すれば必ず～する／～することなしには…しない」

【例】 He never visits me without complaining about his wife.

彼は来れば必ず奥さんの悪口を言う。

- ・sweat 「汗をかく」
- ・permanently 「永久に」

- ・affect 「影響を与える」
- ・recover 「元に戻る／回復する」
- ・hence 「したがって」
- ・regular 「定期的な」
- ・diet 「(日常の)食事」
- ・keep A under control 「A を抑えておく」
- ・burning 「燃えるような」
- ・sensation 「感覚」

【解法のヒント】

このパラグラフは「トウガラシのようなピリッとする食べ物に慣れる身体の仕組み」について述べている。第1文では「トウガラシのような辛い食べ物に慣れるのは可能か?」という疑問を述べ、第2文では「トウガラシのような食べ物の辛さに耐えられるのは、辛味成分であるカプサイシンに対する痛みの受容体の反応の仕方が変化する結果である」と第1文への答えを述べている。第3文ではカプサイシンの説明がされている。①で「辛味に反応し、痛みの信号を脳に伝達する神経細胞」について述べた後、②では「カプサイシンに繰り返し短期間触れることで、辛味を伝達しなくなる」ことを、③では②の理由として「長期的に繰り返し食することで、神経が辛味に慣れてしまう」と述べている。④は③の理由として「辛い食べ物を食べると必ず発汗するから」と述べている。①から③までは「舌の神経(細胞)」について述べているのに④は「発汗」について述べていて、明らかに話がつながっていない。④を取り除けば、続く文の They が③の the nerves を指すことになり、最終2文の「辛味に慣れた神経細胞が元に戻ることがあるので、辛い食べ物を定期的に摂る必要がある」という内容と自然につながりになる。したがって、正解は④。

問3 31

【全訳】

極端に暑くて乾燥した地域で生物が生きているのだろうか、と不思議に思うことがあるだろう。イラン南東部にあるルート砂漠は、地球上で最も暑い場所だと言われている。2005年には、NASAの人工衛星がルート砂漠のある地点で摂氏70.7度の地表温度を測定した。①2014年には、各国の科学者からなるグループがルート砂漠に入り、人工衛星によって示されたその地点に温度記録計を設置した。②地上30センチの高さに設置された記録計が、7月に摂氏61度を示したが、これが公式に記録された最も高い地表温度である。③他方、これまでに記録された最も低い温度は、南極大陸のボストークにあるロシアの研究基地での摂氏-89.2度である。④そ

のような状況の下では、生物は生き延びることができないと想像する人もいるかもしれない。驚くべきことに、そんな暑さに関わらず、昆虫、クモ、さらには砂漠キツネを含む活発な生態系が砂漠に存在していることを、研究者は確認したのである。

【語句・構文解説】

- ・ wonder if SV ... 「…だろうかと思う」
- ・ creature 「生物」
- ・ extremely 「極端に」
- ・ the Lut Desert 「ルート砂漠」 イラン南東部、イラン高原中央部を占める大砂漠。2016年、ユネスコの世界遺産に登録された。
- ・ be said to-不定詞 「～すると言われている」
- ・ NASA 「アメリカ航空宇宙局」 (=the National Aeronautics and Space Administration)
- ・ satellite 「人工衛星」
- ・ measure 「測定する」
- ・ ground temperature 「地表温度」
- ・ spot 「地点」
- ・ install 「設置する」
- ・ indicate 「示す／指し示す」
- ・ above A 「Aより上に」
- ・ surface 「地表／表面」
- ・ register 「示す／記録する」
- ・ officially 「公式に」
- ・ on the other hand 「ところが一方では／他方」

【例】 Jim had great difficulties playing baseball.

But on the other hand, he was an awfully good basketball player.

ジムは野球を大の苦手にしてた。だが一方、バスケットボールはものすごくよかった。

- ・ research station 「研究基地」
- ・ Vostok 「ボストーク」 南極大陸の内陸部にあるロシアの観測基地。ロシア語で「東」という意味。
- ・ Antarctica 「南極大陸」
- ・ conditions 「環境／状況」
- ・ survive 「生き延びる」
- ・ surprisingly 「驚くべきことに」
- ・ confirm that SV ... 「…ということを確かめる」
- ・ despite A 「Aにも関わらず」
- ・ lively 「活発な」
- ・ ecosystem 「生態系」
- ・ exist 「存在する」
- ・ including A 「Aを含む」
- ・ insect 「昆虫」

- ・ spider 「クモ」
- ・ desert fox 「砂漠キツネ」

【解法のヒント】

このパラグラフは「生物が極端に暑くて乾燥した地域で生きているかどうか」について述べている。第1文でトピックを述べた後、第2文から④までで「イランのルート砂漠で最も高い気温が記録された」ことについて、④と最終文で「そのような極端に暑い環境でも生物が生きている」ことについて述べている。ところが、③は「最も低い気温の記録」という「暑さ」とは無関係の内容を述べている。③を取り除けば、④の Under such conditions が②で述べられた「極端に暑い状況」を指すことになり、自然なつながりになる。したがって、正解は③。

C 意見要約問題

32

【全訳】

エイミー：今日は、日本のゴミ問題について話したいと思うの。自分の出すゴミのリサイクルを以前よりちゃんとやる人が増えているという意見があるけれど、この状況についてどう思う、ケンジ？

ケンジ：昔は、ゴミをどのゴミ箱にでもいからただ放り込むだけで、どんな種類のゴミかなんて気にしていないように思えたよ。でも、最近では、缶用、新聞用、ガラスのボトル用、ペットボトル用、他のゴミ用と特定の標示がされたゴミ箱を設置しているところが増えているね。どれがゴミを入れる正しい箱かを判断するために、一つ一つのゴミ箱の標示を注意深く確かめている人が増えているようだ。僕が見る限りでは、これは進歩だよ。カナコ、君はどう思う？

カナコ：ケンジ、私はまだ十分できていないと思うわ。ペットボトルやドリンクの缶を平気で電車内や通り沿いに置いたまま立ち去る人もいる。また、自分がどれだけ無駄なことをしているかを考えずに、雑誌や新聞を燃えるゴミのゴミ箱にただ放り込む人もいるわ。そういう人は、印刷物を集めて、それを縛り、他のリサイクル可能な物と一緒に出したりはしないのよ。みんながリサイクルをすれば、問題は解決するのにな。

エイミー：では、カナコ、あなたは 32 と言って

いるの？

【語句・構文解説】

- ・garbage 「ゴミ」
- ・do a good job at ~ing 「ちゃんと～をする」
- ・recycle 「リサイクルする」
- ・view 「考える／考察する」
- ・situation 「状況」
- ・in the past 「昔は」
- ・it seems to A that SV ... 「…であるように A(人)には思える」
- ・throw A in B 「A を B に投げ込む」
- ・any kind of A 「どんな種類の A でも」
- ・garbage bin 「ゴミ箱」
- ・without ~ing 「～しないで」
- ・pay attention to A 「A に注意を払う」

【例】 You should pay attention to how much you eat.

食べる量に注意した方がいいですよ。

- ・nowadays 「最近／近頃」
- ・specially marked bin 「特定の表示がされたゴミ箱」 specially marked は bin を修飾する過去分詞句。
- ・location 「場所」
- ・signs saying (that) SV ... 「…と書かれた標示」 saying 以下は signs を修飾する現在分詞句。
- ・say (that) SV ... 「(本・手紙・掲示などに)…と書いてある」

【例】 The newspapers say it's going to be cloudy today.

今日は曇りだと新聞に出ている。

- ・notice A ~ing 「A が～しているのに気づく」
- ・the correct one = the correct bin correct 「正しい」
- ・progress 「進歩」
- ・as I see it 「私が見る限りでは」
- ・thoughtlessly 「平気で／軽率にも」
- ・leave 「置いたまま立ち去る」
- ・burnable 「可燃性の」 (←unburnable 「不燃性の」)
- ・the waste they are creating 「彼らが生み出している無駄」 they are creating は the waste を修飾する接飾節。
- ・waste 「無駄」
- ・create 「生み出す」
- ・printed material 「印刷物」
- ・tie up A / tie A up 「A を縛る／くくる」

- ・recyclable 「リサイクル可能な／再生可能な」
- ・material 「物／原料」
- ・If S' + 過去形, S would + 動詞の原形 「もし～すれば…するだろうに」 現在の事実と反する仮定を表す仮定法過去。

【設問解説】

32

- ① 新聞は他のゴミと一緒に捨てるべきだ
 - ② 人々はゴミ箱に付けられた標示により注意するようになっているようだ
 - ③ リサイクルは環境を守るのに良い方法ではない
 - ④ 人々のリサイクルの仕方には改善の余地がある
- ・room for A 「A のための余地」

カナコは、「飲み物のボトルを置きっぱなしで立ち去る」、「新聞などを可燃ゴミと一緒に捨てる」、「印刷物を縛ってリサイクルに出さない」などの例を挙げて、人々のリサイクル活動はまだ不十分であると言っている。④が正解。①は、上記の内容より不可。②、③のような内容は、カナコの発言にはないので、不可。

33

【全訳】

カナコ：ええ、少なくともそれが私の考えよ。

リック：あなたはどうか？

リック：僕は、さらにもう一歩前進するべきだと思う。リサイクルは大切なことだけど、これはもっと大きな問題の一部にすぎないと思う。つまり、僕たちはまず初めに、使用する缶やガラスのボトルやペットボトルの数を減らすべきだよ。リサイクルは大事だけどお金もかかり汚染の元にもなるし、そもそもそういった物がすべて僕たちに必要だとは限らないよ。どこへでもボトルに入った飲み物を持ち歩く必要なんてない。便利に思えるから買うだけで、どうしても必要なわけではないよ。

エイミー：では、リック、あなたの言いたいことは

33 ということなのね。

【語句・構文解説】

- ・go a step further 「さらにもう一歩前進する」 further は far 「遠く」の比較級。
- ・that is 「つまり」 (=that is to say)

【例】 I believe his story, that is, I have no reason to doubt it.

彼の話を信じます。つまり、疑う理由がない

ということです。

- ・ reduce 「減らす」
- ・ the number of A 「A の数」 A は複数扱いの可算名詞。
- ・ to begin with 「まず初めに」

【例】 To begin with, we didn't have enough money.

まず初めに、私たちには十分なお金がありませんでした。

- ・ cost 「(費用が)かかる」
- ・ pollution 「汚染」
- ・ not ~ all of A 「A のすべてが~というわけではない」 部分否定。
- ・ in the first place 「そもそも／第一に」
- ・ carry around A / carry A around 「A を持ち歩く」
- ・ everywhere 「どこへでも」
- ・ just because SV ... 「ただ...という理由で／単に...だからといって」
- ・ convenient 「便利な」
- ・ essential 「どうしても必要な／不可欠な」

【設問解説】

33

- ① 物をリサイクルしさえすればよい
- ② お金がかかるので、リサイクルはもはや不可欠ではない
- ③ 私たちは、自分が生み出すリサイクル可能なゴミの量を減らさなければならない
- ④ 便利なので、ボトル入りの飲み物が必要だ

リックの第3文 That is, we ought to reduce the number of cans, glass bottles and plastic bottles that we use to begin with. 「つまり、僕たちはまず初めに、使用する缶やガラスのボトルやペットボトルの数を減らすべきだよ」より、③が正解。①のようなことは述べていないので、不可。②は、リックは第4文で「リサイクルはお金がかかる」とは言っているが、「リサイクルがもはや不可欠ではない」とは言っていないので、不可。④は、リックの最終発話「(ボトル入りの飲み物は)便利に思えるから買うだけで、どうしても必要なわけではないよ」に反するので、不可。

34

【全訳】

リック：うん、そのとおり。

メリッサ：考えなければならないもう一つの要因は、都市によってはリサイクル可能な物が十分な速さで処理できないということ

よ。これらの都市は、持ち込まれる大量の缶やボトルや印刷物の処理が追いつかなくなるから、それらを市の土地や市の倉庫に高く積み上げて保管しておかなければならない。これはかなりのスペースをとるわ。それに、すべてのリサイクル原料が再度利用できるとは限らないのよ。リサイクルした缶からとれるアルミは貴重で、メーカーによってすぐに買い取られて再利用されるけど、ペットボトルからとれる原料はそんなに簡単に再利用はされないわ。プラスチックはあり余っているから、処理された後でさえ山積みになっているのよ。

リック：正直言って、そんなことを考えたことはなかったよ。

エイミー：なるほど、あなたたち2人は、34 という点で意見が一致しているようね。

【語句・構文解説】

- ・ factor 「要因」
- ・ item 「品物」
- ・ process 「処理する」
- ・ 副詞[形容詞]+enough 「十分に~」
- ・ keep up with A 「A に遅れないでついていく」

【例】 She tries to keep up with the latest fashion.
彼女は最新の流行についていこうとしている。

- ・ incoming 「入って来る／持ち込まれる」
- ・ printed matter 「印刷物」
- ・ store 「保管する／蓄える」
- ・ in big piles 「高く積み上げて」
- ・ warehouse 「倉庫」
- ・ take up A / take A up 「A(スペースなど)を占める」
- ・ in addition 「それに加えて／さらに」

【例】 She won a gold medal at the Olympics. In addition, she won two silver medals.

彼女はオリンピックで金メダルを獲得した。

さらに、銀メダルも2つ獲得した。

- ・ not all A ~ 「すべてのAが~とは限らない」 部分否定。
- ・ aluminum 「アルミ」
- ・ valuable 「貴重な」
- ・ manufacturer 「メーカー／製造業者」
- ・ reuse 「再利用する」
- ・ too much of A 「あまりに多くのA」

- ・ pile up 「積み上がる」
- ・ even after SV ... 「…した後でさえ」
- ・ to be honest 「正直に言って」
- ・ agree that SV ... 「…ということで意見が一致している」

【設問解説】

34

① リサイクルだけでゴミ問題が解決するわけではない

・ A alone 「A だけで」

② リサイクルがゴミ問題に対する最終的な答えだ

③ 私たちには、リサイクル原料を保管するためのスペースがもっと必要だ

④ 私たちは、ペットボトルをもっとたくさん集める必要がある

リックは「リサイクルはもっと大きな問題の一部にすぎず、まず最初に、使用するペットボトルなどの数を減らすべきだ」という主旨の発言をしている。メリッサは「都市によってリサイクル可能な物が十分な速さで処理できないところもあること」について述べていて、「プラスチックがあまり余っていること」を例に挙げている。この2人の意見に共通しているのは、「リサイクルだけでゴミ問題が解決するわけではない」ということであるので、①が正解。②は、2人のうちどちらもこのようなことは述べていないので、不可。③は、メリッサは「大量の缶などを保管しておくのにかなりのスペースをとる」と言っているが、リックはこのようなことは述べていないので、不可。④は、2人のうちどちらもこのようなことは述べていないので、不可。

第4問 図表・広告問題

A 図表問題

【全訳】

アメリカへの初期の移民の大部分がヨーロッパ諸国から来たことと、アメリカがそうした国々と深い結びつきを維持してきたことを考慮すると、アメリカ人とヨーロッパ人が多くの面で共通するものがあるのは、極めて自然なことである。両者は、民主主義の基本原則を遵守する姿勢を共有している。両者は、半世紀以上にわたり政治と軍事上の同盟に参加してきた。両者はまた、世界で最高レベルの生活水準も享受している。

しかしながら、ある中立的立場をとる調査機関による最近の調査で、アメリカ人とヨーロッパ人の間には、いくつかの根本的な問題に関して、かなりの相違点があることが分かった。第1の相違は、両者

が個人主義についてどのように考えているか、という点である。研究者たちは、人生での成功が自分ではどうすることもできない力によって決定されるとどれほど強く思っているか、そして人生における自分の状況を改善するために一生懸命努力することがどれほど重要であるか、と人々に尋ねた。第2の相違は、社会において政治が果たす役割についての人々の考えに関係している。第3の相違は、人々の生活に宗教がどれほど重要であるかに関するものである。

個人主義に関しては、その調査によると、ヨーロッパ人のすべてよりもアメリカ人の方が、自分自身の運命を自分で決めているという信念をずっと強く抱いているということが分かる(図1)。アメリカ人は人生で成功するために一生懸命努力することは非常に重要だと思う傾向にあるが、ヨーロッパ人のすべてはその考えをそれほど強く抱いていない。イギリス人だけがアメリカ人に近いが、ギリシャ人は、その信念の確信度がアメリカ人より20%低い。ポーランド人は、外的要因の影響をスペイン人やフランス人よりも強く信じている。とはいえ、彼らはそうした影響を最も強く確信しているドイツ人ほどは信じていないが。この信念は、各国の国民が、自分の成功が自分自身の努力によるのか、あるいは、自分以外の外的な力によるのかをどれほど強く信じているかに基づいているように思える。

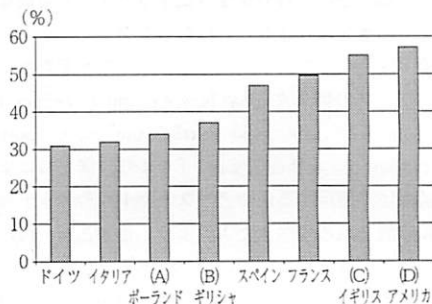


図1：自分自身の運命を自分で決めていると信じている人々の割合

アメリカ人とヨーロッパ人はまた、社会で政治が果たす役割についての考えにおいても異なる。その調査で尋ねたのは、個人は政府から干渉を受けるべきではないか、それとも、政府は社会のいかなる構成員も困窮しないようにするために積極的な役割を果たさなければならないか、ということだった。図2によると、アメリカは、政府の干渉よりも個人の自由を優先する点で、すべてのヨーロッパ諸国とかなり異なるということが分かる。アメリカ以外の国

の国民の55%以上が、政府は困窮している人々を助けるべきだと思っている一方で、アメリカ人においては35%しかそのように思っていない。

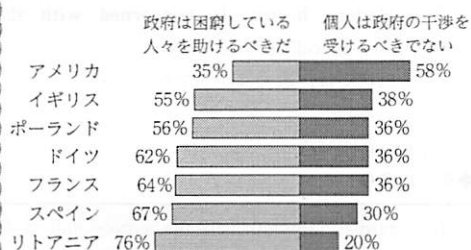


図2：個人の自由対政府の積極的役割

第3の相違は、宗教が生活の中で非常に重要だと言う人の割合においてである。アメリカ人の50%以上が宗教は彼らにとって重要だと言っているが、フランスを例にあげて比較してみると、14%の人しか宗教が日常生活に重要だとは答えていない。このことは、結果として人生における成功をもたらすような達成を信仰心が何らかの形で促すのか、それとも信仰心と成功はまったく関係がないのか、という疑問を生じさせる。

【訳と語句・構文解説】

◆第1段落◆

Given that large percentages of early American immigrants came from European countries and that America has maintained deep connections with those countries, it is only natural that Americans and Europeans share many things. They share a commitment to basic democratic principles. They have participated in a political and military alliance that has lasted over a half century. They also enjoy some of the highest living standards in the world.

アメリカへの初期の移民の大部分がヨーロッパ諸国から来たことと、アメリカがそうした国々と深い結びつきを維持してきたことを考慮すると、アメリカ人とヨーロッパ人が多くの面で共通するものがあるのは、極めて自然なことである。両者は、民主主義の基本原則を遵守する姿勢を共有している。両者は、半世紀以上にわたり政治と軍事上の同盟に参加してきた。両者はまた、世界で最高レベルの生活水準も享受している。

- Given that large percentages of early American immigrants came from European countries and that America has maintained deep connections

with those countries. 「アメリカへの初期の移民の大部分がヨーロッパ諸国から来たことと、アメリカがそうした国々と深い結びつきを維持してきたことを考慮すると」 Given に続く that-節が and で2つ並列されている。

given that SV ... 「…を考慮に入れると／…ということを考えると」

〔例〕 Given that she's inexperienced, we can't entirely blame her for the accident.

経験不足であることを考えると、必ずしも事故の責任を全面的に彼女に負わせることはできない。

large percentages of A 「Aの大部分」

immigrant 「(外国からの)移民／移住者」

maintain 「維持する」

connection 「つながり／関係」

share 「共有する」

commitment to A 「Aの遵守／Aへの献身」

democratic 「民主主義の」

principle 「原則」

political 「政治的な」

military 「軍事の／軍事的な」

alliance 「同盟／協力関係」

last 「続く／継続する」

a half century 「半世紀」

living standard 「生活水準」

◆第2段落◆

A recent survey by an independent research organization, however, has found that there are considerable differences between Americans and Europeans on several fundamental issues. The first is in how they view individualism. The researchers asked people how strongly they believed that success in life was determined by forces beyond the individual's control and how important it was to work hard in order to improve one's situation in life. The second has to do with people's view of the role of government in society. The third is concerned with how important religion is in people's lives.

しかしながら、ある中立的立場をとる調査機関による最近の調査で、アメリカ人とヨーロッパ人の間には、いくつかの根本的な問題に関して、かなりの相違点があることが分かった。第1の相違は、両者が個人主義についてどのように考えているか、という点である。研究者たちは、人生での成功が自分で

はどうすることもできない力によって決定されると
 どれほど強く思っているか、そして人生における自
 分の状況を改善するために一生懸命努力することが
 どれほど重要であるか、と人々に尋ねた。第2の相
 違は、社会において政治が果たす役割についての
 人々の考えに関係している。第3の相違は、人々の
 生活に宗教がどれほど重要であるかに関するもので
 ある。

- ・ recent 「最近の」
- ・ survey 「調査」
- ・ independent 「中立(第三者)的立場による／独立した」
- ・ research 「調査」
- ・ organization 「機関／組織」
- ・ considerable 「かなりの」
- ・ fundamental 「根本的な」
- ・ issue 「問題(点)／論点」
- ・ the first = the first difference
- ・ individualism 「個人主義／個性」
- ・ researcher 「研究者」
- ・ asked people how strongly they believed that success in life was determined by forces beyond the individual's control and how important it was to work hard in order to improve one's situation in life. 「人生での成功が自分ではどうすることもできない力によって決定されるとどれほど強く思っているか、そして人生における自分の状況を改善するために一生懸命努力することがどれほど重要であるか、と人々に尋ねた」 asked の目的語となる2つの how節が and で並列されている。

determine 「決定する」

force 「力」

beyond A's control 「Aにはどうすることもできない／Aの支配を超える」

[例] The delay of the flight was due to circumstances beyond our control.

飛行機の遅れは、私たちにはどうにもできない事情によるものだった。

- ・ have to do with A 「Aと関係がある」

[例] This problem may have to do with her childhood memories.

この問題は彼女の子どもの頃の記憶と関係があるかもしれない。

- ・ view 「考え」
- ・ role 「役割」

・ government 「政治」 この意味では不可算名詞なので、原則として無冠詞で用いる。

・ be concerned with A 「Aに関係している」

[例] Modern history is concerned with the future as well as with the past.

近代史は、過去ばかりでなく未来にも関係している。

・ religion 「宗教」

◆第3段落◆

In regard to individualism, the survey indicates that Americans hold a much stronger belief than all of the Europeans that they control their own destiny (Figure 1). Americans tend to think that working hard to get ahead in life is very important, while all of the Europeans are less dedicated to that idea. Only the people of the UK are close to those of the US, whereas the Greeks are 20% less convinced than the Americans. The Poles believe more in the impact of external factors than the Spanish and French, although they believe less in it than the Germans, who are the most convinced of that impact. This belief seems to be based on how strongly each country's people believe that their success depended on their own efforts or on external forces.

個人主義に関しては、その調査によると、ヨーロッパ人のすべてよりもアメリカ人の方が、自分自身の運命を自分で決めているという信念をずっと強く抱いているということが分かる(図1)。アメリカ人は人生で成功するために一生懸命努力することは非常に重要だと思う傾向にあるが、ヨーロッパ人のすべてはその考えをそれほど強く抱いていない。イギリス人だけがアメリカ人に近いが、ギリシャ人は、その信念の確信度がアメリカ人より20%低い。ポーランド人は、外的要因の影響をスペイン人やフランス人よりも強く信じている。とはいえ、彼らはそうした影響を最も強く確信しているドイツ人ほどは信じていない。この信念は、各国の国民が、自分の成功が自分自身の努力によるのか、あるいは、自分以外の外的な力によるのかをどれほど強く信じているかに基づいているように思える。

・ in regard to A 「Aに関して」 (=with regard to A / regarding A)

[例] In regard to gun control, we need stricter laws.

銃の規制については、もっと厳しい法律が必要

要だ。

- ・ indicate that SV ... 「…ということを示す」
- ・ a much stronger belief ... that they control their own destiny 「自分自身の運命を自分で決めているというずっと強い信念」 that they control their own destiny は belief の内容を示す同格の that-節だが、belief と分離して用いられている。destiny 「運命」
- ・ figure 「図」
- ・ tend to-不定詞 「～する傾向がある」
- ・ get ahead 「成功する／出世する」
- ・ be dedicated to A 「A(考えなど)を強く信じている」
- ・ be close to A 「Aに近い」
- ・ whereas SV ... 「…である一方」 (=while SV ...)
- ・ 20% less convinced 「確信度が20%低い」
- ・ the Poles 「ポーランド人」
- ・ impact 「影響／効果」
- ・ external 「外的な／外部からの」
- ・ be based on A 「Aに基づいている」
- ・ depend on A 「Aに左右される／A次第である」
- ・ effort 「努力」

◆第4段落◆

Americans and Europeans also differ in their view of the role of government in society. The survey asked whether the individual should be free from interference from the government or whether the government should play an active role to ensure that no member of society is in need. Figure 2 indicates that America differs considerably from all of the European countries in prioritizing individual liberty over government interference. While 55% or more in the other nations believe that the government should help people in need, only 35% of Americans believe the same.

アメリカ人とヨーロッパ人はまた、社会で政治が果たす役割についての考えにおいても異なる。その調査で尋ねたのは、個人は政府から干渉を受けるべきではないか、それとも、政府は社会のいかなる構成員も困窮しないようにするために積極的な役割を果たさなければならないか、ということだった。図2によると、アメリカは、政府の干渉よりも個人の自由を優先する点で、すべてのヨーロッパ諸国とかなり異なるということが分かる。アメリカ以外の国の国民の55%以上が、政府は困窮している人々を助

けるべきだと思っている一方で、アメリカ人においては35%しかそのように思っていない。

- ・ differ in A 「Aの点で異なる」

[例] These shoes **differ in** size, but not in shape.

これらの靴は、大きさは違うが、形は違わない。

- ・ whether SV ... or whether SV ~ 「…か、それとも…か」

- ・ be free from A 「Aがない」

[例] He is **free from** financial anxieties.

彼には金銭上の心配がない。

- ・ interference 「干渉／妨害」

- ・ the government 「政府」

- ・ play a ~ role 「～な役割を果たす」

- ・ ensure that SV ... 「…ということを確実にする／確実に…であるようにする」

- ・ in need 「困窮して」

- ・ considerably 「かなり」

- ・ prioritize A over B 「BよりAを優先する」

- ・ liberty 「自由」

- ・ nation 「国民」

◆第5段落◆

The third difference is in the percentage of those who say that religion is very important in their life. Over half of Americans say that religion is important to them, compared with France, for example, where only 14% respond that religion is significant in daily life. This raises the question of whether religious beliefs somehow promote achievement resulting in success in life or whether they are entirely unrelated.

第3の相違は、宗教が生活の中で非常に重要だと言う人の割合においてである。アメリカ人の50%以上が宗教は彼らにとって重要だと言っているが、フランスを例にあげて比較してみると、14%の人しか宗教が日常生活に重要だとは答えていない。このことは、結果として人生における成功をもたらすような達成を信仰心が何らかの形で促すのか、それとも信仰心と成功はまったく関係がないのか、という疑問を生じさせる。

- ・ those who ... 「…する人々」

- ・ compared with A 「Aと比較すると」

[例] We had more patients this week **compared**

with last week.

先週と比べると今週の方が患者が多かった。

- ・ respond that SV ... 「…と答える」
- ・ significant 「重要な」
- ・ daily life 「日常生活」
- ・ raise the question of ~ 「～という疑問を提起する」
- ・ somehow 「何らかの形で／何とかして」
- ・ promote 「促す／増進する」
- ・ achievement 「達成／業績」
- ・ result in A 「A という結果となる」

【例】 The fire has resulted in four injuries.

その火事で4人のケガ人が出た。

- ・ entirely 「まったく」
- ・ unrelated 「関係がない」

【設問別解説】

問1 この文章によると、アメリカ人とヨーロッパ人の間での相違点は何か？ [35]

- ① アメリカ人の方が、個人の自由を大切だと信じている。
- ② アメリカ人は、成功は外部からの力によると思っている。
- ③ アメリカ人の方が、一生懸命努力することは重要ではないとみなしている。
- ④ アメリカ人は、政府は人々を支援すべきだと思っている。

第4段落第3文に Figure 2 indicates that America differs considerably from all of the European countries in prioritizing individual liberty over government interference. 「図2によると、アメリカは、政府の干渉よりも個人の自由を優先する点で、すべてのヨーロッパ諸国とかなり異なるということが分かる」とあるので、①が正解。②、③は、第3段落第2文に Americans tend to think that working hard to get ahead in life is very important, while all of the Europeans are less dedicated to that idea. 「アメリカ人は人生で成功するために一生懸命努力することは非常に重要だと思う傾向にあるが、ヨーロッパ人のすべてはその考えをそれほど強く抱いていない」とあり、それに続く第3文に Only the people of the UK are close to those of the US, whereas the Greeks are 20% less convinced than the Americans. 「イギリス人だけがアメリカ人に近いが、ギリシャ人は、その信念の確信度がアメリカ人より20%低い」とある。したがって、図1から(D)が約57%で1番割合が高いことが分かるので、(D)がアメリカとなり、次に高い割合の(C)がイギリスとなる。また、ギリシャはアメリカより20%低い37%(=57%-20%)の(B)となる。そして、第4文に、The Poles believe more in the impact of external factors than the Spanish and French, although they believe less in it than the Germans, who are the most convinced of that impact. 「ポーランド人は、外的要因の影響をスペイン人やフランス人よりも強く信じている。とはいえ、彼らはそうした影響を最も強く確信しているドイツ人ほどは信じていないが」とあるので、(A)がポーランドとなる。よって、②が正解。

問3 この調査の主な目的は [37] ことだ。

- ① アメリカ人がヨーロッパ人と異なる点を突き止める
- ② アメリカ人の信念がどこに由来しているのかを明らかにする
- ③ ヨーロッパ人の考え方がどのようにアメリカに影響を及ぼしているかを示す
- ④ アメリカ人とヨーロッパ人が同じ信念を共有していることを示す

第2段落第1文に、A recent survey by an independent research organization, however, has

で、不可。

問2 図1において、(A)、(B)、(C)および(D)は、次のうちどれを示しているか？ [36]

- ① (A) ギリシャ (B) アメリカ
(C) ポーランド (D) イギリス
- ② (A) ポーランド (B) ギリシャ
(C) イギリス (D) アメリカ
- ③ (A) イギリス (B) アメリカ
(C) ギリシャ (D) ポーランド
- ④ (A) アメリカ (B) イギリス
(C) ポーランド (D) ギリシャ

第3段落第2文に Americans tend to think that working hard to get ahead in life is very important, while all of the Europeans are less dedicated to that idea. 「アメリカ人は人生で成功するために一生懸命努力することは非常に重要だと思う傾向にあるが、ヨーロッパ人のすべてはその考えをそれほど強く抱いていない」とあり、それに続く第3文に Only the people of the UK are close to those of the US, whereas the Greeks are 20% less convinced than the Americans. 「イギリス人だけがアメリカ人に近いが、ギリシャ人は、その信念の確信度がアメリカ人より20%低い」とある。したがって、図1から(D)が約57%で1番割合が高いことが分かるので、(D)がアメリカとなり、次に高い割合の(C)がイギリスとなる。また、ギリシャはアメリカより20%低い37%(=57%-20%)の(B)となる。そして、第4文に、The Poles believe more in the impact of external factors than the Spanish and French, although they believe less in it than the Germans, who are the most convinced of that impact. 「ポーランド人は、外的要因の影響をスペイン人やフランス人よりも強く信じている。とはいえ、彼らはそうした影響を最も強く確信しているドイツ人ほどは信じていないが」とあるので、(A)がポーランドとなる。よって、②が正解。

問3 この調査の主な目的は [37] ことだ。

- ① アメリカ人がヨーロッパ人と異なる点を突き止める
- ② アメリカ人の信念がどこに由来しているのかを明らかにする
- ③ ヨーロッパ人の考え方がどのようにアメリカに影響を及ぼしているかを示す
- ④ アメリカ人とヨーロッパ人が同じ信念を共有していることを示す

第2段落第1文に、A recent survey by an independent research organization, however, has

found that there are considerable differences between Americans and Europeans on several fundamental issues. 「しかしながら、ある中立的立場をとる調査機関による最近の調査で、アメリカ人とヨーロッパ人の間には、いくつかの根本的な問題に関して、かなりの相違点があることが分かった」とあり、その後、両者の考え方を比較するために具体的に3つの相違点を調査で扱っている。したがって、①が正解。

問4 どの話題が最終段落に続く可能性が最も高いか？ 38

- ① 個人主義と経済的豊かさがどのように関係があるか
- ② 宗教が成功への姿勢にどのように影響を及ぼすか
- ③ 宗教の違いがいつから始まったか
- ④ ヨーロッパ諸国の人々はどのようにして信仰心をなくしたか

第5段落最終文に This raises the question of whether religious beliefs somehow promote achievement resulting in success in life or whether they are entirely unrelated. 「このことは、結果として人生における成功をもたらすような達成を信仰心が何らかの形で促すのか、それとも信仰心と成功はまったく関係がないのか、という疑問を生じさせる」とあるので、次に続く内容としては、宗教と人生における成功との関係に関するものになりそうであると予測できる。したがって、②が正解。①の個人主義の話題は、第2段落で述べられている第1の相違点と関わることなので、不可。③の「宗教の違いが出始めた時期」と④の「ヨーロッパ諸国の人々が宗教心をなくした理由」は、最終段落で示されている第3の相違点である「宗教がどれほど人生に重要かが国民によって異なること」とは関連性が低いので、不可。